

丸の内朝飯会だより

ネパール 40年前と今

長谷川 隆氏

元青年海外協力隊(現呼称、JICA 海外協力隊)

ネパール ドイツ UAE 日本協会 代表

長谷川さんは40年前に青年海外協力隊の一員として2年間、ネパールの辺境の地へ果樹栽培の指導に赴き、以来ネパールの人たちとの交流を続けてきた。仕事はアラブ首長国連邦(UAE)で砂漠の植林事業後、農薬、化学品、医薬品の会社に勤務され、個人旅行も含めると今までに43か国を訪問。ネパールには去年の定年後に3回、通算9回訪ねている。今回の講演では、たくさんの貴重な写真を見せていただきながら、40年前のネパールと現在の変容ぶり、そして日本の抱える課題等についても触れていただいた。

ここでは事前にいただいた資料ファイルからの要約を掲載する。なお、同ファイルには長谷川氏に強い影響を与えた人、94歳まで40年間ネパール農業開発に捧げた近藤亨さんについての思い出の記載もあり、感銘深い。

(紹介者・岩谷 参加者37名 ホテル7+ズーム30)

■1981年からの協力隊時代

ヨガに興味がありインドに憧れ大学時代に、インド、ネパールへ。卒業後1981年から2年間、ネパールで協力隊活動を行った。ヒンズー教、多民族、カースト制度のあるネパールの標高差が900mもある村で人々と共に生活した。電気、ガス、風呂、水道、便所もなく、車の通る道もない。バスの走る町まで歩いて2日かかった。教育を受けるのが厳しい状況の子供が多く、医療も乏しい。



写真はボジプールのピャウリ村の大地主(右)らと。中央が長谷川氏、その後ろかに使用人の馬子。馬は8万円で購入した長谷川氏の馬。

■ヒマラヤの麓の結婚行列

標高500~1500mの大斜面に段々田圃があり、春には近所総出で田植えをする。稲刈り後の11月、ヒマラヤを仰いで7時間の山越え谷越えの結婚行列に参加した思い出がある。白馬に乗る深紅のサリー姿の花嫁、50人ほどの村人と1900mの峠を越え、ラッパや太鼓を奏でながら歩き、新郎の村に行く。翌日は地元の村人も大勢加わり、稲刈り後の段々田圃で肉と白米だけの宴会が催された。



村人はヒンズー教の信仰が深く、断食をする。またお祭りが多く、秋のダサイン10日間、ティハールの祭り5日間、都会から戻った人は家族、親戚らと故郷の家に集い、仲睦まじく祈りを捧げ、ご馳走を食べて過ごす。古来の習慣で、家族、親戚、地元の仲間との深いつながりが今もある。

■カースト制度

カーストによる種族間の上下意識は根強く、現在もカーストの違う者同士の結婚には親の強い反対がある。カーストの上位は38%ほどを占めるインド・アーリアン系のブラーマンとチェットリ族。この両種族が政治や経済の多くのポストを占めており、モンゴリアン系、仏教系など少数民族には不満があるようだ。

■カトマンズの変わりよう

首都カトマンズは、昔は周りに田畑が広がる小さな町で穏やかなで暖かい人々の暮らしがあった。今は地方から人々が押し寄せ、家々が建ち並び、車とバイクで交通渋滞が激しい。美しい田園風景は失われ、河は黒く悪臭を放っている。土地は4年で2倍に高騰。GDPは10年で2.5倍になった。しかし輸出産業は育たず国家予算の3割以上が外国への出稼ぎ先からの送金で成り立っている。ネパールは外国への出稼ぎ比率が他の南アジア諸国に比べ3倍高いが、この出稼ぎ急増とカトマンズへの移住急増は、1996年から10年間、マオイストの反乱で地方に住んでいると兵隊にとられるなど、死の危険を感じ、逃げる必要があったためだ。

■中国の影響

ネパールへの外国からの投資で、日本は1%以下に対し、中国が50%、インドが25%程である。中国による道路やダムなどインフラ建設に加え、チベット国境を越えた軍事道路になりうる道路建設の話もあり、スリランカのような債務でデフォルトが懸念される。政治も中国寄り。

■教育熱

現在、子供の将来を考え、教育熱が高まっている。英語媒体の私立学校に学費が高くても入れようという考えが強い。教育費が高いため、特に都市では子供は1人でもいい、という意識が強くなっている。外国留学、出稼ぎの急増もあり、ネパールは今、10歳以下の人口が急激に減っている。

■外国への出稼ぎ、留学の増加と問題

ネパール人家族の誰かが外国に留学や働きに行っていることに驚く。出稼ぎは世界140か国に出ていて、1日千人が出国、若者の殆どが外国に出ようと考えているとも言われる。山村から若者が減り田畑が荒廃、文化の継承も危ぶまれている。年金などの社会保障がとても低い。親たちは外国で学び、稼ぎ活躍する子らを誇りに思いつつも、子も孫も身近にいない寂しさ、そして老後の不安を感じている。カトマンズでは1か月夫婦で5万円の収入がないと教育費など高く生活できないが、月に3万円以上稼ぐ人は少なく、そのため外国で働くことだけが希望のようだ。出稼ぎ先はマレーシア、中近東が圧倒的に多く、次いで韓国、日本、台湾、オーストラリア、欧州など。賃金などで日本は韓国や台湾より人気は少し落ちるとも聞く。留学先としては、英語圏のオーストラリア、カナダ、英国、米国などの人気が高く優秀な学生が行く。日本は日本語習得に2年は必要で、人気落ちて6番目くらいだ。

■ネパールの日本語学校

ネパールには800もの日本語学校が乱立。日本語力が低くても働きに行きやすい特定技能制度がある。ネパールの日本語学校から日本の学校に合格し入国できると、生徒1人当たり10万円を日本の学校からもらえるのが一般的。かつ生徒から5万円以上受け取っている。ネパールの日本語学校は短い期間の授業で早く日本に送りだして稼ぎたい、という状況。

■技能職のコックで来日する家族の問題

日本語ができなくとも10年のコック経験があれば日本で働ける技能職があり、家族帯同で来日できるのが人気で、多くのネパール人がネパール・インド料理店で働いている。実はコック経験がなくても書類の偽造で問題なく来日できるという。そして150万円以上を支払っての来日だ。言葉もできずコック経験もなく、ネパール人経営者に安月給で毎日16時間くらい酷使される。借金も安月給では重くのしかかる。そうした状況のなかで呼び寄せた家族の生活は言葉の壁もあって不安定になり、多くの問題が生じる。

■少子高齢化、人手不足の日本

留学先、働く国としての日本の状況

日本は少子高齢化で人手不足に直面し、外国からの労働力を必要としている。その日本は40年前、「Japan as

number 1」と言われ、ネパールの村の子供が世界一の経済大国はアメリカではなくて日本だ、と言っていたこともある。今の日本は1人当たりGDPが世界で31位と落ちてしまった。IT力も31位。30年間GDP、賃金は伸びず、円安にもなり出稼ぎ先として、また留学先、就職先としての魅力は落ちている。世界に出て行こうとするネパール人たちはよく見ている。

■移民受入れの多い国の経済発展

カナダは移民大国で、優秀な専門人材の受け入れがもうすぐ年間50万人に達し、難民受入れも多い。カナダの人口は4,000万人。日本はその3倍だが、年間出生数が75万人に減っている。ドイツは日本の人口の約3分の2、8,000万人なのに出生数は80万人と日本より多く、かつ移民、難民を多く受け入れている。20年前、日本はGDPがドイツの2.5倍だったが、今は追い抜かれようとしている。アラブ首長国連邦は1,000万人の人口の9割が外国からの労働者であるが、石油依存経済から脱却、先進国入りし、その経済発展は目を見張る。カナダ、ドイツ、UAEは移民を多く受け入れることで、それが力となり経済発展している。日本も優秀な外国人留学生、特定技能等労働者を大いに増やすことが肝要と考える。

■在日ネパール人の問題

日本に滞在するネパール人は多くの問題を抱えている。日本語が不自由な状態で来日するので、医療、教育を受けるのは難しく、生活が困難でネパール人社会から抜け出せない。特に子供の教育に大きな支障が出ている。留学生も日本語がネックで就職も難しい。日本社会が外国からの留学生や就労者にやさしい環境、制度を作っていくことが人手不足の日本では、ますます重要になっている。

■日本の対応提案

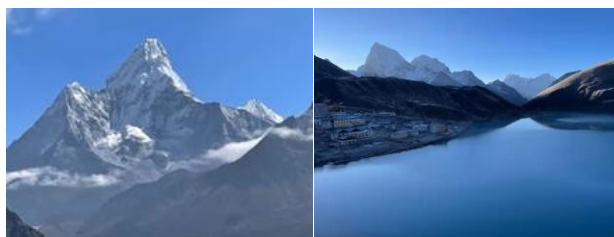
1. 留学生への奨学金の拡大(一定期間就職を前提に)
*より多くの留学生の受け入れにつなげる
2. 働く外国人への日本語教育の推進
*夜間、自宅でオンラインで学べる体制を
3. 英語で学べて、日本語、母国語も学べる、安価なインターナショナルスクールの設立
4. 日本の英語教育を幼稚園、小学校1年生から
*教科書に英語併記 *英語媒体で日本語教育もしっかり教える学校を多く *家族で長く生活しやすい日本に

2023年9月、10月、ネパールへ34日間

ヒマラヤトレッキング14日間 音楽家との交流 日本語学校訪問 etc.



パンチカールを訪問。スラム街の塾での教育。小学1~3年生に学ぶ上での基本的なことを教えている。



ヒマラヤトレッキング。左はアマダブラム 6856m。シェルパ語で「母の首飾り」。右はゴーキョ 4790mからゴーキョ・リ 5360mへのトレッキング途中でみた湖。4790mにあるホテルは3世代が住む。周りに樹木はなく燃料はヤクの糞。



ヒマラヤの麓、ガンドル村(1951m)でティハール祭の踊り。朝7時から夜10時まで歌って踊る。

■ひと言メモ

<p>初めを知る国のことを色々教えた。たまたま、並に日本に付いて来る。それでした。山の美しさが心に残りました。あまの国の問題解決で協力し合えればいいですね。カネモリ</p>	<p>ネパールの沢山の美しい映像、日本はこれぞよいのかとどうも思っています。長谷川 隆</p>	<p>八〇ページの発表を、なんとか最後までたどり着けてほっとしたところです。少子高齢化で人手不足の日本、輸出産業を育てられないで、人材ばかり送り出すネパール、両国がともにより関係をもつて、そしてよき文化を大事にして、若者が希望を持てる国になることを望みます。また自分なりに取り組みたいと思います。</p> <p>長谷川 隆</p>
<p>ネパールについていろいろ見方があるというところが今日の長谷川さんの言葉でわかりました。</p> <p>桐元 成明</p>	<p>長い間のネパールとの交流でいろいろな面からわかるところを頂きました。近年の急激な少子化はなぜでしょう？ ありがとうございます。長 昌浩</p>	<p>40年前のネパールの風景や結婚式の写真など興味深く拝見しました。現在はネパールの産業が貧弱で出稼ぎの送金がGDPの2%と現状は今後どう変わるかが、ますます気になりました。</p> <p>(橋谷)</p> <p>ネパールの現状を知ると、日本が誇るべき国が見えてくる。市原 実</p>

■外国との比較で映し出される長期低落を続ける井の中の蛙「日本」の姿、辛いですね。AIの今一步の進歩により、言葉のバリアー無しに行き来出来るようになる未来に備えないと。

浜垣秀樹

■ネパールという、興味深い国の実態を知る事が出来て、過去から現在までの日本人との比較を知るきっかけとなり、もっと昔のネパール人を知りたいと思いました。沢山の情報をありがとうございました。石原 暁美

■旅行だけでは知りえないネパールの成長ぶりを詳しく解説下さり感謝です。教科書の英語併記に驚き外国就労を契機に世界各地で活躍される事が一般化している国民性に期待。藤原 淑子

■長年ネパールに関わってこられた方ならではの深いお話満載の1時間でした。日本を選んで来日してくれるネパールの若者が、気持よく働けるような日本になりますようにと心から願います。富樫 道子

■優秀な人がカナダなどの英国圏へ移民し経済発展に貢献し、日本語学校で半年程学んで GDP・給与が 30 年間上がらない日本へ来て苛酷な環境で労働に従事。日本の問題点が浮き彫りになりました。西尾 佳子

■移民政策でカナダ(21.3%)、ドイツ(16.2%)、日本(2.3%)とのこと。これが日本の最大課題ですね。大幅な賃金 UP や受入れ制度を大改造中ですが… 吉田 勝昭

■師走にも この暖かさ 歩も軽し：みのもる 長谷川隆さんのネパールの実情報告に、6年前の「棚沢さん引率ツアー」で訪問を思い出しました。日本の協力の必要だと、感じました。市原 実

■丸の内朝飯会でネパールの国は話題になるので、興味のある国でした。海外協力隊として長年活動した話は 40 年前から現在までの現状が、リアルに伝わりました。熊倉 充義

■長谷川さんがネパールでやってきた事を、もっと、知りたかったです。朝飯会には今日のお話に出た、近藤亨さんの仕事に興味を持つ方が大勢います。クルミー

■沢山の写真と体験をお聞きしていて、本題のネパールの未来だけでなく、激動のユーラシア大陸から置いてけ堀の日本の未来が心配になりました。田中 正知

■ブータンの旅では、1960 年代から農業指導をした西岡京治氏の偉業を知りましたが、ネパールにも近藤亨氏のような素晴らしい方がおられた。日本の誇りですね。氷室 すみ